

頁	誤	正
page 10; 図 2.1	$\psi = A \cos \theta$	$\psi = A \sin(\theta - \pi/2)$
page 34; 下から 2 行目	物質に衝突したり	物質中の原子核に衝突したり
page 39; 2 行目	室温 20°	室温 20°C
page 47; 5 行目	換算質量は $\mu = \sqrt{2}m_n$	換算質量は $\mu = m_n/2$
page 47; 7 行目	$\hbar\omega = m_n v'^2/2 - m_n v^2/2 \cong m_n v(v' - v)$	$\hbar\omega = m_n v^2/2 - m_n v'^2/2 \cong m_n v(v - v')$
page 35; 下 4 行目	3.2 は	図 3.2 は
page 42 から page 67	3.5、3.12、3.17、3.18、3.19	図 3.5、図 3.12、図 3.17、図 3.18、図 3.19
page 62; 式 (3.84) 1 番目の積分	$\int_{V_P} \beta(\mathbf{r}') e^{-i\mathbf{Q}\cdot\mathbf{r}} d^3\mathbf{r}$	$\int_{V_P} \beta(\mathbf{r}') e^{-i\mathbf{Q}\cdot\mathbf{r}'} d^3\mathbf{r}'$
page 75; 9 行目	以下に、	表 3.5 に、
page 77; 図 3.25	原子	原子核
page 83; 11 行目	微分散乱散乱断面積	微分散乱断面積
page 100; 下から 6 行目	系内の粒子体積分率 $\phi$ を大きくする、	系内の粒子体積分率 $\phi$ が大きくなると、
page 117; 式 (4.107)	$\log I(Q \rightarrow \infty)$	$I(Q \rightarrow \infty)$
page 120; 式 (4.118)	$I(Q) \sim \frac{R^{D_s}}{q^{2d-D_s}} \sim q^{-(2d-D_s)}$	$I(Q) \sim \frac{R^{D_s}}{Q^{2d-D_s}} \sim Q^{-(2d-D_s)}$
page 120; 式 (4.120) の下	ここで、 $\tau$ は分散指数で、 $M_z$ は次式で与えられる $z$ -平均質量 (分子量) である。	ここで、 $\tau$ は分散指数である。また、 $h(M/M_z)$ は $M/M_z$ の関数で、 $M_z$ は次式で与えられる $z$ -平均質量 (分子量) である。
page 120; 式 (4.122) のすぐ上の行	$I(q)$	$I(Q)$
page 126; 式 (4.144) のすぐ下の行	$\Phi^2(U) \approx 1 - (1/3)R_g^2$ となり、	$\Phi^2(U) \approx 1 - (1/3)R_g^2 Q^2$ となり、
page 139; 14 行目	(「応答」) が	(「作用」) が
page 144; 式 (4.263)	$= S_{AA} \frac{\det S}{\sum_{ij} S_{ij} - 2\chi_{AB} \det S} \times (\delta W_B - \delta W_B)$	$= \frac{\det S}{\sum_{ij} S_{ij} - 2\chi_{AB} \det S} \times (\delta W_A - \delta W_B)$
page 144; 式 (4.264)	$= S_{BB} \frac{\det S}{\sum_{ij} -2\chi_{AB} \det S} \times (\delta W_B - \delta W_A)$	$= \frac{\det S}{\sum_{ij} S_{ij} - 2\chi_{AB} \det S} \times (\delta W_B - \delta W_A)$
page 145; 下 2 行目	文献 17) を 1 つ削除	
page 165; 下 1 行目	相補誤差関数の定義と、の導出と	相補誤差関数の定義と
page 167; 式 (5.96)	$k_x^2 + k_z^2 = (k_x + \epsilon)^2 + \delta^2 + (\xi - k_z)^2$	$k_x^2 + k_z^2 = (k_x + \epsilon)^2 + \delta^2 + (\xi - k_z)^2$

次ページへ続く

表: 正誤表 (続き)

頁	誤	正
page 171; 10 行目	突く	撞 (つ) く
page 173; 2 行目	不連続的に離れたところ現れる	幅広く現れる
page 183; 4 行目	が実験から直接	を実験から直接
page 187; 式 (6.42) の下 2 行目	第 1 項は	第 2 項は
page 188; 下 5 行目	段面積	断面積
page 191; 10 行目	1923 年	1932 年
page 197; 下 5 行目	局所線減衰計数	局所線減弱係数
page 204; 上から 2 行目	$(1 \geq E \geq 10 \text{ eV})$	$(1 \leq E \leq 10 \text{ eV})$
page 215; 下 8 行目	中性子散乱装置は	中性子散乱装置の多くは
page 224; 文献 94)	<a href="https://jrr3ring.jaea.go.jp/jjoin/">https://jrr3ring.jaea.go.jp/jjoin/</a>	<a href="https://j-join.cross.or.jp/">https://j-join.cross.or.jp/</a>

表の終わり